

## 中間まとめ (平成27年8月21日)

### 1 オリンピック・パラリンピック教育が目指す人間像

- (1) 自らの目標を持って自己を肯定し、自らのベストを目指す意欲と態度を備えた人
- (2) スポーツに親しみ、知・徳・体の調和のとれた人
- (3) 日本人としての自覚と誇りを持ち、自ら学び行動できる国際感覚を備えた人
- (4) 多様性を尊重し、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献できる人

教育のレガシー

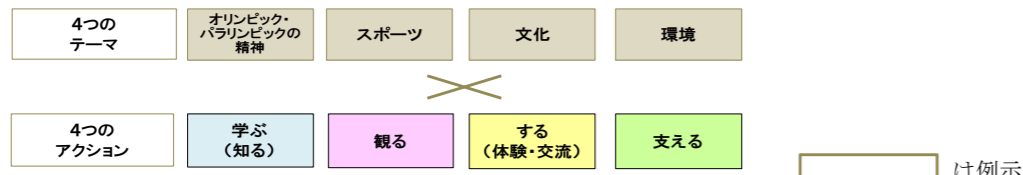
子供たち一人ひとりの心と体に、人生の糧となるかけがえのないレガシーを形成

### 2 取組に当たっての基本的視点

- (1) すべての子供が大会に関わる
- (2) 座学だけでなく、体験や活動を通じて学ぶことを重視する
- (3) 大会後も見据え、計画的・継続的に切れ目のない教育に取り組む

### 3 オリンピック・パラリンピック教育の基本的枠組

4つのテーマと4つのアクションを組み合わせた多様な取組を進め、28年度から全校で展開



|                   |                   | 学ぶ<br>(知る)   | 観る | する<br>(体験・交流)   | 支える   |
|-------------------|-------------------|--|----|---|---|
| オリンピック・パラリンピックの精神 |                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>オリンピック・パラリンピックの精神、歴史、人物等について、学習読本等を活用し、基礎的な理解を深める</li> <li>オリンピック・パラリンピックが国際親善や平和な社会の実現に果たす役割を学ぶ</li> </ul>                   |    |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域のスポーツ大会や障害者スポーツ大会等をボランティアとして支える</li> <li>東京2020大会に関連したボランティアに参加</li> </ul> |
| スポーツ              | オリンピック競技          | <ul style="list-style-type: none"> <li>国内大会やテストイベント等の機会を活用し、オリンピック・パラリンピックの各種競技を観戦・応援</li> </ul>   |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>アスリートや指導者を学校に招き、オリンピック・パラリンピックの競技スポーツを体験する</li> </ul>  |   |
|                   | パラリンピック競技・障害者スポーツ |  |    |   |   |
| 文化                | 日本文化              | <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の文化・歴史を題材とした都独自の英語教材を作成・活用し、少人数・習熟度別指導を拡大するなどして英語教育を推進</li> </ul>   |    |   |   |
|                   | 国際理解・交流           |  |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>在京の留学生や外国人、大使館、海外の学校との様々な交流等を促進することにより、国際感覚を養う</li> <li>被災地の子供たちとともに東京大会参加国の学校や団体と様々な文化交流を進める</li> <li>障害者アートをはじめ多様な文化プログラムやマイルストーンイベントに参加・体験する</li> </ul> |   |
| 環境                |                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>オリンピック・パラリンピックと環境との関わりや大会を通じた持続可能な社会づくりについて学ぶ</li> <li>大会施設の見学等を通じて環境に配慮した大会運営やバリアフリーへの対応、大会を支える様々な企業活動や最新技術について学ぶ</li> </ul> |    |   |   |

中間まとめに加え、教育内容を具体化

### ● 重点的に育成すべき5つの資質

全校で、4テーマ×4アクションの多彩な取組を行うが、とりわけ**5つの資質の育成**に重点を置く。

#### (1) ボランティアマインド

発達段階に応じてボランティアに関わる取組を継続的・計画的に行い、社会貢献や他者を思いやる心、「おもてなし」の精神等を育むとともに、子供たちの自尊心を高める。障害のある児童・生徒が社会貢献やボランティアに参加できる仕組みを構築する。

#### (2) 障害者理解

障害の有無に関わらず、ともに力を合わせ生活できる共生社会を実現するため、障害者理解の学習・体験や障害者との交流を通じ、多様性を尊重し、障害者を理解する心のバリアフリーを子供たちに浸透させる。

#### (3) スポーツ志向

多様なスポーツへの興味・関心を高め、体験することを通じ、フェアプレーやチームワークの精神を育み、心身ともに健全な人に育てる。

#### (4) 日本人としての自覚と誇り

日本の伝統や最新の文化を学び、世界に発信する力を育てるとともに、日本人の規範意識や公共の精神等を学ぶことを通じ、日本人としての自覚と誇りを身に付ける。

#### (5) 豊かな国際感覚

世界の多様な国々の歴史や文化を学ぶとともに、留学生や外国人、海外の学校等との交流を促進し、豊かな国際感覚を養う。

### ● 学習・教育活動の進め方

(1) 各学校の特色や学校長の経営方針等に基づき、**年間35時間程度を目安**とし、学校全体で組織的・計画的に実施するとともに、一つの教科等に偏ることなく、**全教育活動で展開**

(2) **体験や活動を重視**し、主に以下の**4つの取組**を推進

① **東京ユースボランティア** (資質(1)、(2)を育成)

地域清掃、地域行事・スポーツ大会、地域防災、障害者・高齢者福祉施設等での**ボランティア活動**等を実施  
更に、中高生を対象とする**自主的ボランティア活動を促進するための仕組みを検討**

② **スマイルプロジェクト** (資質(1)、(2)、(3)を育成)

障害者スポーツの観戦・体験等の機会の拡充を図るとともに、スポーツ等を通じた**特別支援学校と地域の学校との交流**を充実

③ **夢・未来プロジェクト** (資質(1)～(5)を育成)

**オリンピック、パラリンピアン、外国人アスリート等との交流**を通じ、スポーツの素晴らしさを体感し、国際理解や障害者理解を促進

④ **世界ともだちプロジェクト** (資質(4)、(5)を育成)

多様な国々を学びながら、地域在住の留学生、大使館や海外の姉妹校との交流等、**実際の国際交流活動を実施**